



3月14日
東地申第57号

「2022年度営業関係施策（その2）」についての申し入れ

【品川営業統括センター（その2）】団体交渉開催！（その1）

<交渉のポイント>

- 効率的な業務執行体制のため、第8ホームおよび山手・京浜ホームの立番について見直しを行う。
- 安全面や新作業ダイヤ施行にあたって、問題は発生しない。
- 現場でのコミュニケーションの取り方については、首都圏本部から箇所に伝えていく。

冒頭、施策の進め方について地本から指摘！

現場では今回も紙面だけの周知だけだ！施策の進め方に問題がある！交渉でしっかり議論し、現場の思いに立つべきだ！

組合

会社 交渉の中でしっかり議論し、回答していくことに変わりはない。

1. 今回の施策で第8ホーム(15番線)の立番を廃止できる根拠を具体的に明らかにすること。また、今後立番を配置する時間を明確にし、その根拠を示すこと。

回答:車掌用 ITV の整備による車掌の視認性が確保され、乗降終了合図の省略が可能となることから、お客さまのご利用状況等を勘案し、体制の見直しを行うものである。なお、お客さまのご利用状況を考慮し、一部時間帯において乗降終了合図を掲出する予定である。

組合

- ◆第8ホームは改良工事で状況が変化しているが、そのような状態で立番を廃止できるのか。
- ◆改良工事途中のタイミングで実施する根拠は。
- ◆ホーム立番の声を聞いているのか。
- ◆施策の進め方が一方的だ。現場では納得感がなく、安全が考えられていないと声がでている。
- ◆立番がいることで安心感やサービスの提供ができた。サービス低下にはならないのか。
- ◆6時30分から降車客が増えているが、立番配置が7時30分～9時だけの根拠は。
- ◆夕方は不要か。ダイヤ改正後に状況を見てから実施すべきだ。
- ◆立番の時間変更は現場で可能か。
- ◆第8ホームはS字となっているが、発車後の安全確保に問題はないのか。
- ◆立番廃止のメリットとデメリットは。
- ◆警備員の配置などは行わないのか。

会社

- ◆工事の進捗も考慮して判断。安全は確保できる。お客さまの流れが変化していくことは見ていく。
- ◆品川に限らず、効率的な仕事ができないか検討をしている中で、改良工事も考慮して実施可能と判断。
- ◆全員は困難なので、管理者や工事業者の声を把握した。
- ◆箇所内のコミュニケーションは引き続き取っていただきたい。安全上問題ないを考える。
- ◆現時点でサービス低下とはならない。人によらないサービスや情報提供のありかたなど引き続き検討していく。
- ◆利用状況や現場の声を反映している。
- ◆夕通勤時間帯は15両化などもあり、問題はない。
- ◆立番の時間変更は作業ダイヤの変更で可能。
- ◆ホームの形状は認識しているが、車掌の状態注意の中で、異常を認めたら非常停止手配を取ってほしい。
- ◆メリットは効率的な業務執行体制、デメリットは人ならではの案内だ。
- ◆必要であれば配置を検討していく。

2. 品川駅における新作業ダイヤ(案)について2022年12月15日の施策提案日から、2023年1月30日に示されるまでの日数を要した理由を具体的に示すこと。また、営業統括センター内において、田町駅の新作業ダイヤ(案)と示されるまでの日数より大幅に日数を要していることについての理由を具体的に示し、施策提案後の新作業ダイヤ(案)については、提案後速やかに示すこと。

回答:施策実施に向けた必要な準備を進めていたものであり、準備出来次第周知していく考えである。



3月14日
東地申第57号

「2022年度営業関係施策（その2）」についての申し入れ

【品川営業統括センター（その2）】団体交渉開催！（その2）

組合 <2項議論内容>

- ◆なぜ日数を要したのか。
- ◆1月30日に示されるのは遅すぎる。
- ◆紙面上だけの意見集約では、議論できない。
- ◆田町と品川で提示時期が異なることは。
- ◆営統セなので一事業場で出すべき。田町駅には意見聴取して議論する時間があった。品川駅ではこうなっていない。作業ダイヤを作成するにあたって、きちんと指導すべき。不信や差別を感じる。現場で議論できる環境を作るべき。

会社

- ◆ダイヤ改正の影響もあった。箇所内で案を考えていただき、準備した結果。
- ◆1日でも早くという思いはあった。振り返りをしなくてはならないと感じている。
- ◆社員周知などの意見は現場へ伝える。改善すべき点は改善していく。いたずらに遅く示したわけではない。
- ◆一緒にタイミングで出せればよかった。
- ◆しっかりやっていきたい。箇所長には伝えていく。

3. 新作業ダイヤ上発生する問題を解消すること。また、新作業ダイヤ作成する場合には社員の意見を反映させ安全作業で働きやすい、お客さまの安全・安心が担保される新作業ダイヤとすること。なお、社員の意見集約後の会社回答(変更の根拠等)については、これまでの会社回答と一貫性のある回答とすること。

回答:作業ダイヤは、お客さまのご利用状況等を踏まえ、箇所長による定例的な業務指示・命令を図式化したものである。

4. 平日、夕通勤時間帯の山手線(内・外)、京浜東北線(南行)の立番配置についてはこれまで同様に配置し、立番を根拠無く廃止しないこと。また、朝・夕通勤時間帯の山手線・京浜東北線の情報拠点については第1ホーム事務室としてきた根拠を具体的に示すこと。なお 2023年3月18日以降についても、平日の朝・夕通勤時間帯の山手線・京浜東北線の情報拠点については、第1事務室とすること。

回答:お客さまのご利用状況等を踏まえ、乗降終了合図の見直しを行うものである。なお、異常時においては、駅総体で対応することとなる。

組合 <3・4項同時議論>

- ◆問題が発生することはないのか。
- ◆第1案で山手内回りの立番があったが、第2案で山手内回り・外回り、京浜南行の立番がなくなった理由は。
- ◆どれくらいの声が上がったのか。
- ◆山手外回りの立番が残った理由は。
- ◆納得感がない。書面でのやり取りだけでは説明不足で不透明感があり、疑問の声が出ている。
- ◆山手内回りと京浜南行は立番不要と判断した理由は。
- ◆新入社員がホームドアに関わる機会が減っている。
- ◆教育の視点を含めて作業ダイヤを作成すること。
- ◆夕通勤時間帯の情報拠点が第1事務室だった根拠と、輸送本部に統一した根拠は。
- ◆輸送Bの負担が大きい。

現場で話せる・聞ける雰囲気を作るべきだ
現場で説明責任を果たし、山手内回り・京浜南行の立番は残し、情報拠点は第1事務室とすべきだと主張!

会社

- ◆問題ないと考えている。
- ◆現場から夕通勤時間帯は立番不要ではと声があった。
- ◆具体的に誰とは把握していないが、現場長等が議論した結果。
- ◆再度意見聴取した結果、京浜北行から山手外回りへの流動は見るべきと判断し山手外回りを残した。
- ◆意見集約した中での判断。コミュニケーションの取り方などが課題であれば箇所に伝えていく。
- ◆お客さまのご利用状況。
- ◆しっかり学ばなければならないという認識。OJT や訓練室を活用してほしい。
- ◆箇所長に伝えていく。
- ◆これまでは運転本数などを勘案。中心は輸送本部であり、第1事務室にこだわる必要はない。場合によっては内勤も対応していただく。
- ◆問題ない。



3月14日 「2022年度営業関係施策（その2）」についての申し入れ 東地申第57号 【品川営業統括センター（その2）】 団体交渉開催！（その3）

5. 担務変更等を含んだ職場内OJT(見習い教育)については、十分な期間を担保し、新たな担務を担当する場合には職名を問わず、必ずOJT(見習い教育)を実施すること。また、これまで作業ダイヤを作成するにあたり、会社が根拠とした内容を遵守し運用を行うこと。

回答:必要な教育は行っていく考えである。なお、作業ダイヤは、お客さまのご利用状況等を踏まえ、箇所長による定期的な業務指示・命令を図式化したものである。

組合

- ◆必要な教育とは。
- ◆現場では不慣れな状態や要員問題で1人立ちしている。
- ◆「俺が大丈夫だと言ったら大丈夫」と言う管理者もいる！このままでは危険であり、パワハラにつながる！

会社

- ◆違う担務などを担当するときに、机上教育を行っていく。
- ◆不安を克服しなくてはならない。
- ◆習熟度で一本立ちを判断していく。

6. ホーム上の指定席券売機については、お客さまサービスの視点から発車時刻前直近 1 本の列車と限定とし、即売の機能を高めること。また、特急券の事前購入についての案内をお客さまに目立つよう行い、事前購入の逍遥を行うこと。

回答:必要な周知および対応は行っていく考えである。

組合

- ◆ホーム上の券売機の発売状況は。
- ◆直近列車以外の購入は。
- ◆直近のみ購入できる券売機を設置すべき。ト列が出来ている。
- ◆お客さまが一番買いやすい方法を検証していくべきだ。

会社

- ◆ひたち・ときわ・湘南号ともに、夕方から増加。
- ◆データ上では直近が多い。時間帯によっては30分後の列車の発売がある。
- ◆要望としては可能だが JR6社の調整が必要。
- ◆話は承る。

7. 近隣窓口の閉鎖に伴い、出札窓口の体制を強化すること。また、繁忙期等において波動対応が行える体制・設備とすること。

回答:現行の体制で対応可能と考えている。なお、繁忙期等においても、箇所総体で対応可能と考えている。

◆7駅からの対応となるが、現状は。

組合

- ◆現行の4窓で対応できているということか。
- ◆お客さまが増えている。以前の5窓に戻すべきだ。
- ◆昨年末の多売期は体制が整っていなかったと考えているが、その認識はあるか。

会社

- ◆3月から臨時的作業ダイヤで出札を増やしたほか、企画業務の部分を MV 案内にするなど工夫している。
- ◆問題ない。乗車票の取扱いも把握している。
- ◆臨時的作業ダイヤで対応可能。
- ◆それを踏まえての今回の臨時作業ダイヤだ。

問題ない下列ではない！体制強化を求める！

8. ライブプラットフォーム「バディコム」について、通信の機能性が悪く、安全作業に支障をきたしていることから、全社員のタブレット端末を5Gに対応したタブレット端末に至急変更すると同時に、駅内の通信機能も合わせて改修・改善すること。なお、変更・改修に時間を要する場合は、従前に使用していた「IP無線機」に置き換えること。

回答:引き続き状況を把握していくとともに、必要な対応は行っていく考えである。

◆バディコムの成果と課題は。

組合

- ◆バディコムは聞こえづらい。首都圏本部としては使えないという考えには至らないということか。
- ◆不具合や通信不能箇所がないことを確認した上で導入するのではないのか。

会社

- ◆特段大きな問題はないが、一部箇所において聞こえづらいという状況。現在 NTT の調査回答待ち。
- ◆業務上安全を非常に脅かすことがあれば、使用中止の可能性はある。5G 化して改善するかもわからない。IP 無線に戻す場合もある。
- ◆改良工事の影響も考えられる。

現場社員が不安を感じる施策であってはならない！
地本は職場の仲間と共に施策の検証を行っていきます！